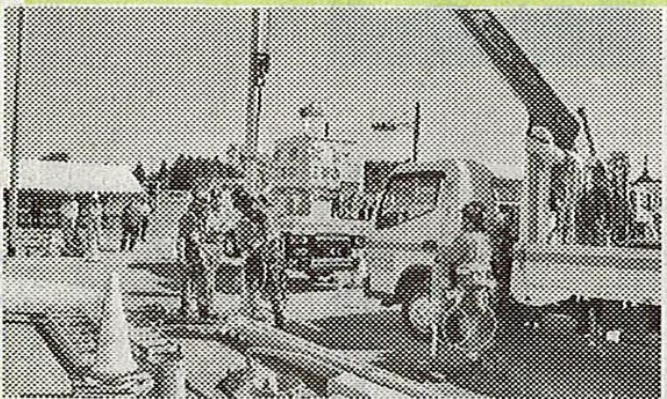


全国交信工事技術協

交通信号工事甲子園(防災版)開く

全国交通信号工事技術普及協会(丹下正彦理事長)は5日、交通信号施工工事の技術を競う「交通信号工事甲子園(防災版)」をシンコーワ三重営業所(菰野町)で開いた。写真。地元四日市市のアサヒ電設をはじめ全国から4社の技術者16人が技術を競った。当日は競技者や関係者など約150人が参加した。

丹下理事長は「この競技により技術者の底辺拡大、現場力の向上、最新



の工事技術の普及拡大、会社間競争を通じた施工技術レベルの向上などが期待できる。競い合うことにより技術力が成長する。事故防止に十分配慮し、日頃の実力を発揮してほしい」とあいさつした。全国知事会危機管理・防災委員長を務める鈴木英敬三重県知事は「災害により信号が復旧しないと交通渋滞や円滑な緊急輸送に支障を来すことになる。技術を高め合つこの甲子園は大変貴重な機会。こうした取り組みが全国で広がっていくようにしたい」と述べた。

競技は、倒壊した信号柱を抱き込み方式により復旧することを安全性、正確性、迅速性、班長の指揮能力などで競った。優勝は常盤電業(埼玉県)、2位は五島電気建設(京都府)、3位はアサヒ電設、最優秀班長賞に五島電気建設の前川健司さんが選ばれた。